



グローバル・フォーラム会報

THE GLOBAL FORUM OF JAPAN BULLETIN, Summer 2005 Vol.6, No.3

日韓対話開催さる 「東アジア共同体の展望と日韓関係」

グローバル・フォーラム (GF) は、韓国大統領諮問東北アジア時代委員会および東アジア共同体評議会 (CEAC) と協力して、4月27-28日に東京において、日韓政策対話「東アジア共同体の展望と日韓関係」を開催した。

なお、この「日韓政策対話」は、社団法人東京倶楽部と財団法人日韓文化交流基金から助成を得て、日韓友情年事業の一環として開催され、GFメンバーなど96名が参加した。28日の本会議Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの議論の概略を以下に紹介する。



歓迎夕食会で挨拶する
谷川秀善外務副大臣 (中央)

東アジア共同体と日韓協力

28日午前の本会議Ⅰでは、甲斐紀武GF世話人が司会し、「東アジア共同体構築と日韓協力」につき、議論された。

まず文正仁韓国大統領諮問東北アジア時代委員会委員長から、「韓国は大陸勢力と海洋勢力の架橋をめざす。その4原則は①同時並行の連携②重層的な協力③開放的地域主義④共同体志向であり、市場経済と民主主義を共有する日韓の協力が必要」、ついで小此木政夫慶應義塾大学教授から「日韓関係は『体制摩擦』から『体制共有』に移行すべきだが、歴史問題が大きな障害だ。竹島問題は歴史問題から分離し、日韓間の新しい『共同体意識』の形成をめざすべし」との基調報告がなされた。

これに対しコメンテーターから「日韓間の真の過去の清算が重要」(李華泳韓国国会議員)、「日韓間の対中、対北朝鮮認識のずれが日韓連携を決定的に損なう恐れあり」(斎藤勉産経新聞正論調査室長)等のコメントがなされた。

政治・安全保障協力

午後の本会議Ⅱでは、東亜ドットコム の鄭求宗社長が司会し、「政治・安全保障協力」のテーマで議論が行われた。

まず猪口孝中央大学教授から「日韓両国の戦略を比較すると、日本は『普通の大国』への変容を進め、韓国は日中両国の『覇権主義』を思い止まらせ、朝鮮半島再統一を迫っている。これらの戦略動向が、両国と北東アジアの平和・安定・繁栄の鍵を握っている」、ついで尹徳敏韓国外交安保研究院教授から「東アジアは世界化・透明性・民主化という3つの課題に直面している。これら課題の克服には日韓協力による共同体の構築が必要である」との基調報告がなされた。

これに対しコメンテーターから「台頭するナショナリズムに注目し、相互理解を深める必要がある」(中川正春衆議院議員)、「アメリカはもはや単独で世界をリードできず、東アジア共同体が必要」(権丙鉉元駐中国大使)等のコメントがなされた。

経済的相互依存と協力

午後の本会議Ⅲでは、河合正弘東京大学教授が司会し、「経済的相互依存と協力の展望」につき、議論が行われた。

まず安忠榮中央大学校教授から「東アジアは、成長経済の単なる連合ではなく、より共同体的になる必要がある。



本会議のもよう

経済協力が軍事紛争の危険を削減する」、ついで深川由起子東京大学教授から「韓国は①日本の法と制度の整備と②中国の技術・市場の変化への柔軟性の双方を兼備している。両者の間をつないでほしい」との基調報告がなされた。

これに対しコメンテーターから「日韓間の経済問題は政治、歴史、領土問題よりもはるかに解決が容易である。経済問題を手がかりに後の問題を解決できる」(崔禹錫サムスン電子相談役)、「日中韓の体制の違いは大きい。ASEANも含めた共同体のほうが望ましい」(溝口道郎鹿島建設常任顧問)等のコメントがなされた。

じつは、本会議前日の27日に「日韓政策対話」のパネリストだけに参加者を限定した非公開、オフレコの特別セッション「最近の日韓関係」が急遽開催された。

竹島問題をめぐる直前の韓国「反日」世論の動向と日韓関係をめぐり、本会議前に少なくとも日韓パネリスト間で率直な意見交換を行なっておこうとの趣旨に基づくものであって、有意義な実質的議論を行なうことができた。

このあと27日夕には、谷川秀善外務副大臣主催の歓迎夕食会が行われた。



特別セッションのもよう

「日・黒海対話」開催へ

冷戦の終焉後の雪解けに伴い、黒海沿岸諸国間にも協力・提携を模索する新しい動きが表面化しつつあるが、当フォーラムは近く第1回「日・黒海対話」を東京で開催する予定。

プロジェクト作りには、ユアン・パシク前ルーマニア国防相、ソルマズ・ウナイドゥン駐日トルコ大使、六鹿茂夫静岡県立大学大学院教授などが協力しており、「政治・軍事・経済・エネルギーと地域協力」、「EU・NATO・ロシア・米国の戦略的動向」、「日本にとっての重要性と日本の役割」などのテーマを中心に意見を交換する予定。

来夏「日台対話」開催へ

過去3回開催の実績をもつ「日台対話」(当フォーラムと中華欧亜基金会の共催)の来夏開催が確実になった。甲斐紀武世話人、渡辺蘭事務局長が許世楷台北駐日経済文化代表を訪ね、5月2日協議したが、5月18日にも昼食を共にしながら会談した。

李国宝香港東亜銀行主席、叙勲



李国宝東亜銀行主席

4月29日、当フォーラムの古くからの友人である香港の李国宝(David Li)東亜銀行主席兼特別行

華商銀行公会主席が、旭日中綬章を受章した。日本・香港間の友好への功績を顕彰されたものだが、1997年9月19日の「中台港三角関係の展望」対話への参加など、李主席の当フォーラム諸活動への貢献度は抜群で、伊藤憲一執行世話人とも20年来の家族ぐるみの親交。

国際政経懇話会

佐藤重和外務省経済協力局長を講師に迎えて、当フォーラム他共催の「国際政経懇話会」の3月例会が18日東京全日空ホテルで開催された。

「転換期を迎える日本のODA政策」と題し、「G7諸国がここ数年ODAの実績を着実に増やす中で、日本のODAが大幅に縮小しつつあるのは残念」「これまで経済重視・アジア偏重だった日本のODAは貧困対策や平和構築等の新たな国際的潮流に重心を移しつつある」等のご講話を伺った。その後約1時間にわたり出席者19名と懇談した。

フォーラム活動日誌(3-5月)

- 3月9日第8回外交円卓懇談会(Jan Winkler チェコ第1外務次官他16名)
- 3月10日来日したMustafa Zahrani イラン国際政治問題研究所(IPIS)所長来訪(伊藤憲一執行世話人他4名)
- 3月16日来日したPascal Boniface フランス国際戦略関係研究所(IRIS)所長来訪(伊藤執行世話人他4名)
- 3月18日第170回国際政経懇談会(佐藤重和外務省経済協力局長他19名)
- 3月29日第9回外交円卓懇談会(Norbert Jousten 国際科学技術センター事務局長他9名)
- 4月1日 Leonie Boxtel 豪日交流基金事務局長往訪(甲斐紀武世話人)
- 4月26日第171回国際政経懇談会(莫邦富他23名)
- 4月27日日韓政策対話「東アジア共同体の展望と日韓協力」特別セッション「最近の日韓関係」、谷川秀善外務副大臣主催歓迎夕食会
- 4月28日同上「日韓政策対話」本会議1、II、III(文正仁韓国大統領諮問東北アジア時代委員長他95名)
- 5月2日許世楷台北駐日経済文化代表処代表往訪(甲斐世話人他1名)
- 5月18日許世楷台北駐日経済文化代表処代表会食、懇談(甲斐世話人他4名)
- 5月24日 Solmaz Unaydin 駐日トルコ大使往訪(甲斐世話人他1名)
- 5月25日第10回外交円卓懇談会(Zion Evrony イスラエル外務省政策企画局長他13名)
- 5月27日第172回国際政経懇談会(原口幸市元国連大使他21名)

事務局便り



カンボディア副首相兼内相のノロドム・シリブッド殿下(写真)からこのほど渡辺蘭事務局長に直筆の書簡

が届き、渡辺は「家宝にする」と感激している。

殿下はこれまで東京で開催された「日・ASEAN対話」に出席した感想を「グローバル・フォーラムの活動は、カンボディアと日本の友好を強化するだけでなく、カンボディア国内の政治・経済改革を助長してくれます。この会議を成功に導いた貴女のグローバル・フォーラム事務局長としてのお仕事に賛辞を送ります」と述べている。

■新規入会メンバーの紹介

(3-5月分)

【経済人メンバー】

澤田 秀雄 エイチ・アイ・エス取締役会長

謝 辞

当フォーラムの諸活動の主要な財政的基盤は、その経済人世話人および経済人メンバーの所属する企業の納入する賛助会費にあります。

現時点における賛助会費納入企業は、下記の14社22口です。ここに特記して謝意を表します。

【経済人世話人所属企業】【5口】

トヨタ自動車 キッコーマン

【経済人メンバー所属企業】【1口】

住友電気工業 鹿島建設 新日本製鐵
東京電力 三井住友銀行 旭硝子
東京三菱銀行 日本電信電話
富士ゼロックス ビル代行
松下電器産業 エイチ・アイ・エス

(入会日付順)



グローバル・フォーラム会報
2005年夏季号
(第6巻 第3号 通巻第23号)

発行日 2005年7月1日
発行人 伊藤 憲 一
編集人 渡辺 蘭

発行所 グローバル・フォーラム
〒107-0052 東京都港区赤坂2-17-12-1301
[Tel] 03-3584-2190 [E-mail] info@gfj.jp
[Fax] 03-3589-5120 [URL] http://www.gfj.jp/